

事項	掲載箇所	著者	出版年月 (号)	書名/題名	書籍名/雑誌名等	出版社	ページ	その他、URL 等
バンドン会議/ 平和10原則	書籍	村井吉敬	1983	1/バンドン 西ジャワ・プリ アンガンの町の生成と発展	東南アジア研究		21 (I) : 29-46.	
	論文	岡本正明	1997	スハルト期インドネシアの対外政策, 八〇年代前半に始まる変容 対外政策の原則 Bebas Aktif の持つ意味をふまえて.	アジア研究		43(4):31-64	
	論文	佐野方郁	1999	< 研究ノート> バンドン会議とアメリカ: 戦後アジア国際関係の新展開という文脈の下で	史林		82(1), 122-143.	
	単行本の一部	都丸潤子	2000	バンドン会議と日英関係	イギリス帝国と二十世紀 四 脱植民地化の時代	ミネルヴァ書房	295-296	
	論文	宮城大蔵	2001	バンドン会議と日本のアジア 復帰—アメリカとアジアの狭間で		草思社		
	単行本の一部	宮城大蔵	2004	戦後アジア秩序の模索と日本—「海のアジア」の戦後史 1957～1966		創文社		
	論文	松本誠一	2009	アジア・アフリカ研究所とバンドン会議.	アジア文化研究所研究年報		44, 193-28.	
	論文	都丸潤子	2013	序論 戦後イギリス外交の多元重層化	国際政治		173, 1-14	
	論文	李潜虞	2016	アメリカのアジア・アフリカ会議政策に関する試論	社会システム研究,		207	
	論文	大平 剛	2016	新興開発パートナーと国際開発レジーム—「開発」をめぐる「グローバル・サウス」と「グローバル・ノース」の政治的攻防—	国際政治		183号,102-115	
	論文	金 悠進	2019	「連帯」の光と影 第三世界都市バンドンにおける植民地主義とその脱却	年報カルチュラル・スタディーズ		7 巻, 47-71	
	単行本の一部	平川幸子	2012	東南アジアの戦後: バンドン・非同盟・ASEANの源流と分岐点	梅森直之, 平川幸子, 三牧聖子 編著『歴史の中のアジア地域統合』	勁草書房		
アジア新興工業経済地域 (アジアNIES)	論文集	木村 陸男, 劉 文甫	1992	第2章 アジアNIEsの民営政策	アジア諸国における民営政策の展開		420,43-72	
	論文	渡辺真知子	1992	インドネシアにおける日本・アジア NIES の直接投資	国際経済		(43), 178-181.	
	単行本	平川均	1992	NIES-世界システムと開発-		同文館		
	論文	野副伸一		アジア NIEs 登場の意味	アジア研究所紀要 21		21, 222-201.	
	論文	谷浦孝雄	1994	アジア NIES 論の再検討.	アジア研究,		41(1), 1-24.	
	単行本	平川均, 朴一	1994	アジア NIES: 転換期の韓国・台湾・香港・シンガポール.		世界思想社		
	論文	井上信一	1995	アジア進出日系企業の経営実践と管理会計の国際移転—NIES と ASEAN の比較を中心として—	香川大学経済論叢		68(1), 63-99.	
	論文	武藤宣道	1996	アジア NIES の労働市場と経済発展論	経営研究		9(3), 379-397.	
	論文	須藤 裕之	1996	東南アジアの経済発展と産業構造及び国際分業の変化	名古屋文理短期大学紀要 21 巻		69-79	
	論文	宋立水	1999	アジアNIEsの工業化過程		日本経済評論社		
	論文集	北村 かよ子	2002	アジアNIEsの対外直接投資		日本貿易振興機構アジア経済研究所		
	単行本	後藤 乾一	1995	近代日本と東南アジア—南進の「衝撃」と「遺産」		岩波書店		
	単行本	波多野 澄雄	1996	太平洋戦争とアジア外交		東京大学出版会		
	単行本	倉沢愛子	1997	東南アジア史のなかの日本占領		早稲田大学出版部		
	単行本	立川京一	2000	第二次世界大戦とフランス領インドシナ: 「日仏協力」の研究		彩流社		
	単行本	明石陽至	2001	日本占領下の英領マラヤ・シンガポール		岩波書店		
	単行本	沢田猛	2003	ルソン島戦場の記録: たたかいと飢えの中を生きて	岩波ブックレット	岩波書店		
	単行本	小林英夫	2004	帝国日本と総力戦体制: 戦前・戦後の連続とアジア		吉川弘文館		
	単行本	吉田 裕	2005	日本人の戦争観: 戦後史のなかの変容 (岩波現代文庫)		岩波書店		
	単行本	倉沢 愛子ほか (編)	2005	岩波講座 アジア・太平洋戦争1～8		岩波書店		
	単行本	杉野明	2005	シンガポール捕虜収容所: 戦後60年・時代の証言	世界人権問題叢書	明石書店		
	単行本	油井大三四 ほか	2006	20世紀の中のアジア・太平洋戦争		岩波書店		
	単行本	畠瀬晋三	2007	戦争の記憶を歩く 東南アジアのいま		岩波書店		
	単行本	吉田 裕	2007	アジア・太平洋戦争—シリーズ日本近現代史(6)		岩波書店		
	単行本	リー・ギョク・ボイ著/シンガポール・ヘリテージ・ソサエティ編/越田稜監訳	2007	日本のシンガポール占領: 証言=「昭南島」の三年半		凱風社		

アジア太平洋戦争/大東亜 共栄圏	単行本	林英一	2009	東部ジャワの日本人部隊：インドネシア残留日本兵を率いた三人の男		作品社		
	単行本	和田春樹〔ほか〕編	2011	アジア太平洋戦争と「大東亜共栄圏」：1935-1945年		岩波書店		
	単行本	石井寛治	2012	帝国主義日本の対外戦略		名古屋大学出版会		
	単行本	後藤 乾一	2012	東南アジアから見た近現代日本「南進」・占領・脱植民地化をめぐる歴史認識		岩波書店		
	単行本	倉沢愛子	2012	資源の戦争：「大東亜共栄圏」の人流・物流		岩波書店		
	単行本	中野 聡	2012	シリーズ 戦争の経験を問う 東南アジア占領と日本人 帝国・日本の解体		岩波書店		
	単行本	遠藤美幸	2014	「戦場体験」を受け継ぐということ：ビルマルートの拉孟全滅戦の生存者を尋ね歩いて		高文研		
	単行本	内海愛子，大沼保昭，田中宏，加藤陽子	2014	戦後責任 アジアのまなざしに応じて		岩波書店		
	単行本	成田龍一、吉田裕（編）	2015	記憶と認識の中のアジア・太平洋戦争——岩波講座アジア・太平洋戦争 戦後篇		岩波書店		
	単行本	吉田 裕，伊香 俊哉，高岡 裕之（編）	2015	アジア・太平洋戦争辞典		吉川弘文館		
	単行本	笠原十九司	2017	日中全面戦争からアジア太平洋戦争敗戦まで		高文研		
	単行本	早瀬晋三	2018	グローバル化する靖国問題 東南アジアからの問い		岩波書店		
	単行本	渡邊勉	2020	戦争と社会的不平等：アジア・太平洋戦争の計量歴史社会学		ミネルヴァ書房		
	単行本	荒 哲	2021	日本占領下のレイテ島：抵抗と協力をめぐる戦時下フィリピン周縁社会		東京大学出版会		
	単行本	柿崎一郎	2022	草の根の日タイ同盟：事件史から見る戦時下の日本人とタイ人		京都大学学術出版会		
	単行本	早瀬晋三	2022	すれ違う歴史認識—戦争で歪められた歴史を糺す試み		人文書院		
	単行本	後藤乾一	2022	日本の南進と大東亜共栄圏（アジアの基礎知識 6）		めこん		
アジア通貨危機	単行本	アジア経済研究所	1997	97年アジア通貨危機の分析：アセアン4カ国・NIEs4カ国・地域・中国における背景・影響・展望及び提言		アジア経済研究所		
	単行本	近藤健彦，中島精也，林康史編	1998	アジア通貨危機の経済学		東洋経済新報社		
	単行本	稲葉守満	1999	危機の政治経済学：東南アジア通貨危機の構図		時潮社		
	単行本	荒巻健二	1999	アジア通貨危機とIMF：グローバル化の光と影		日本経済評論社		
	単行本	小林英夫	2000	日本企業のアジア展開：アジア通貨危機の歴史的背景		日本経済評論社		
	単行本	国宗浩三	2000	アジア通貨危機：その原因と対応の問題点		アジア経済研究所		
	単行本	末廣昭	2002	「開発」の時代と「模索」の時代 岩波講座東南アジア史		岩波書店		
	単行本	黒岩郁雄	2002	アジア通貨危機と援助政策：インドネシアの課題と展望		アジア経済研究所		
	単行本	高木信二	2003	通貨危機と資本逃避：アジア通貨危機の再検討		東洋経済新報社		
	単行本	橋本雄一	2005	マレーシアの経済発展とアジア通貨危機		古今書院		
	単行本	橋本優子	2006	アジア通貨危機を超えて：危機の背景と影響，協力体制への模索		三菱経済研究所		
	単行本	国宗浩三	2013	IMF改革と通貨危機の理論：アジア通貨危機の宿題		勁草書房		
米西戦争	単行本	林義勝	2020	スペイン・アメリカ・キューバ・フィリピン戦争：マッキンリーと帝国への道		彩流社		
インドシナ戦争/ ジェネーブ休戦協定	単行本	ビリヤ・バーンスワン著/桜田育夫訳	1987	メコンに死す：インドシナ戦争の裏面を語るノンフィクション・ノベル		めこん		
	単行本	峯陽一，畑中幸子編	2000	憎悪から和解へ：地域紛争を考える		京都大学学術出版会		
	単行本の一部	宮下明聡，佐藤洋一郎編	2004	現代日本のアジア外交：対米協調と自主外交のはざままで	第一章インドシナ外交	ミネルヴァ書房		
	単行本	水本義彦	2009	同盟の相剋：戦後インドシナ紛争をめぐる英米関係		千倉書房		
	単行本	下條尚志	2016	戦争と難民：メコンデルタ多民族社会のオーラル・ヒストリー		風響社		
開発独裁	単行本	吉田勝次	2000	アジアの開発独裁と民主主義		日本評論社		

華僑	単行本	太田勇著/寄藤昂[ほか]編	1998	華人社会研究の視点：マレーシア・シンガポールの社会地理		古今書院		
	単行本	唐松章	1999	マレーシア・シンガポール華人史概説		鳳書房		
	単行本	石井由香	1999	エスニック関係と人の国際移動：現代マレーシアの華人の選択		国際書院		
	単行本	杉村美紀	2000	マレーシアの教育政策とマイノリティ：国民統合のなかの華人学校		東京大学出版会		
	単行本	金子芳樹	2001	マレーシアの政治とエスニシティ：華人政治と国民統合		晃洋書房		
	単行本	陳天璽	2001	華人ディアスポラ：華商のネットワークとアイデンティティ		明石書店		
	単行本	岩崎育夫	2001	アジア政治を見る眼：開発独裁から市民社会へ		中央公論新社		
	単行本の一部	加納弘勝, 小倉充夫編	2002	変貌する「第三世界」と国際社会	5 タイにおけるナショナリズム言説と華人（船津鶴代）	東京大学出版会		
	単行本	山下清海	2002	東南アジア華人社会と中国僑郷：華人・チャイナタウンの人文地理学的考察		古今書院		
	単行本	田中恭子	2002	国家と移民：東南アジア華人世界の変容		名古屋大学出版会		
	単行本	橋廣治	2005	東南アジアにおける新華人事情		近代文芸社		
	単行本	山下清海編	2005	華人社会がわかる本：中国から世界へ広がるネットワークの歴史、社会、文化		明石書店		
	単行本	泉田英雄	2006	海域アジアの華人街(チャイナタウン)：移民と植民による都市形成		学芸出版社		
	単行本	林博史	2007	シンガポール華僑粛清：日本軍はシンガポールで何をしたのか		高文研		
	単行本	相沢伸広	2010	華人と国家：インドネシアの「チナ問題」		書籍工房早山		
	単行本	津田浩司	2011	「華人性」の民族誌：体制転換期インドネシアの地方都市のフィールドから		世界思想社		
	単行本	谷垣真理子, 塩出浩和, 容應炎編	2014	変容する華南と華人ネットワークの現在		風響社		
	単行本	清水純, 潘宏立, 庄国土	2014	現代アジアにおける華僑・華人ネットワークの新展開		風響社		
	単行本	北村由美	2014	インドネシア創られゆく華人文化：民主化以降の表象をめぐって		明石書店		
	単行本	貞好康志	2016	華人のインドネシア現代史：はるかな国民統合への道		木犀社		
	単行本	津田浩司, 櫻田涼子, 伏木香織編	2016	「華人」という描線：行為実践の場からの人類学的アプローチ		風響社		
	単行本	北村由美編	2017	20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動		京都大学附属図書館		
	単行本	篠崎香織	2017	ブラナカンの誕生：海峡植民地ペナンの華人と政治参加		九州大学出版会		
	単行本	松村智雄	2017	インドネシア国家と西カリマンタン華人：「辺境」からのナショナリズム形成		慶應義塾大学出版会		
	単行本	山下清海	2019	世界のチャイナタウンの形成と変容：フィールドワークから華人社会を探究する		明石書店		
	単行本	アルベルトウス＝トーマス・モリ	2020	華人キリスト者の越境と宗教実践：中華性とミッションの人類学的研究		風響社		
TPP	単行本の一部	E. トッドほか	2011	自由貿易という幻想：リストとケインズから「保護貿易」を再考する		藤原書店		
	単行本	馬田啓一, 浦田秀次郎, 木村福成編著	2012	日本のTPP戦略：課題と展望		文眞堂		
	単行本	石川幸一 [ほか] 編	2013	TPPと日本の決断：「決められない政治」からの脱却		文眞堂		
	単行本	馬田啓一, 浦田秀次郎, 木村福成編	2016	TPPの期待と課題：アジア太平洋の新通商秩序		文眞堂		
	単行本	大矢根聡, 大西裕編	2016	FTA・TPPの政治学：貿易自由化と安全保障・社会保障		有斐閣		
	単行本	木村福成, 西脇修編	2022	国際通商秩序の地殻変動：米中対立・WTO・地域統合と日本		勁草書房		
PKO/国連平和維持活動協力法	単行本	上杉勇司	2004	変わりゆく国連PKOと紛争解決：平和創造と平和構築をつなぐ		明石書店		
	単行本	石塚勝美	2008	国連PKOと平和構築：国際社会における東ティモールへの対応		創成社		
	単行本	石塚勝美	2017	ケースで学ぶ国連平和維持活動：PKOの困難と挑戦の歴史		創成社		
	単行本	下村恭民, 中川淳司, 斎藤淳	1999	ODA大綱の政治経済学：運用と援助理念		有斐閣		
	単行本	国際協力推進協会編	2000	アジアで開く未来への扉：国際協力の現場から：ODA		国際協力推進協会		
	単行本	下村恭民 [ほか]	2001	国際協力：その新しい潮流		有斐閣		

ODA	単行本	渡辺利夫, 三浦有史著	2003	ODA (政府開発援助): 日本に何ができるか		中央公論新社		
	単行本	黒岩郁雄編	2004	開発途上国におけるガバナンスの諸課題: 理論と実際		アジア経済研究所		
	単行本	白井早由里	2005	マクロ開発経済学: 対外援助の新潮流		有斐閣		
	単行本	後藤一美, 大野泉, 渡辺利夫編	2005	日本の国際開発協力シリーズ国際開発		日本評論社		
	単行本	西垣昭, 下村恭民, 辻一人著	2009	開発援助の経済学: 「共生の世界」と日本のODA, 第4版		有斐閣		
	単行本	藤岡美恵子, 越田清和, 中野憲志編	2011	脱「国際協力」: 開発と平和構築を超えて		新評論		
	単行本	高松香奈著	2011	政府開発援助政策と人間の安全保障		日本評論社		
	単行本	黒崎卓, 大塚啓二郎編	2015	これからの日本の国際協力: ビッグ・ドナーからスマート・ドナーへ		日本評論社		
	単行本	浅沼信爾, 小浜裕久著	2017	ODAの終焉: 機能主義的開発援助の勤め		勁草書房		
	単行本	大海渡桂子	2019	日本の東南アジア援助政策: 日本型ODAの形成		慶應義塾大学出版会		
	単行本	萱島信子, 黒田一雄編	2019	日本の国際教育協力: 歴史と展望		東京大学出版会		
	単行本	阪本公美子, 岡野内正, 山中達也編	2021	貧困と紛争にどう向き合うか		ミネルヴァ書房		
	単行本	松本悟, 佐藤仁編		国際協力と想像力: イメージと「現場」のせめぎ合い		日本評論社		
	単行本	重田康博 [ほか] 編	2021	経済成長から「持続可能な社会」の実現へ		ミネルヴァ書房		
	単行本	松下列 [ほか] 編	2021	環境保全と貧困克服を目指して		ミネルヴァ書房		
ドイモイ	単行本	関口未夫, トラン・ファン・トゥ編	1992	現代ベトナム経済: 刷新(ドイモイ)と経済建設		勁草書房		
	単行本	矢島鈞次, 窪田光純著	1994	ドイモイの国ベトナム		同文館出版		
	単行本	矢島鈞次, 窪田光純著	1994	新ドイモイの国ベトナム, 新版		同文館出版		
	単行本	五島文雄, 竹内郁雄編	1994	社会主義ベトナムとドイモイ		アジア経済研究所		
	単行本	潤田順一	1995	勃興のベトナム: アジアを変えるドイモイ経済		中央経済社		
	単行本	川喜田二郎 [ほか]	1995	アジア発展の奔流: 変貌する市場と民衆 アジア研究所叢書		アジア書房		
	単行本	古田元夫	1996	ホー・チ・ミン: 民族解放とドイモイ		岩波書店		
	単行本	白石昌也, 竹内郁雄 [共]編	1997	ベトナム共産党第8回大会とドイモイの現段階		アジア経済研究所		
	単行本	白石昌也, 竹内郁雄編	1999	ベトナムのドイモイの新展開		アジア経済出版会		
	単行本	黒田学	2003	胎動するベトナムの教育と福祉: ドイモイ政策下の障害者と家族の実態		文理閣		
	単行本	寺本実	2006	ドイモイ下ベトナムの「国家と社会」をめぐって				
	単行本	寺本実	2007	ドイモイ下ベトナムの「国家と社会」調査研究報告書		アジア経済研究所		
	単行本	松尾康恵	2008	現代ベトナム入門: ドイモイが国を変えた, 増補改訂版		日中出版		
	単行本	古田元夫	2009	ドイモイの誕生: ベトナムにおける改革路線の形成過程		青木書店		
	単行本	寺本実編著	2011	現代ベトナムの国家と社会: 人々と国の関係性が生み出す「ドイモイ」のダイナミズム		明石書店		
	単行本	石塚二葉編	2017	ベトナムの「第2のドイモイ」: 第12回共産党大会の結果と展望 情勢分析レポート		アジア経済研究所		
	単行本	寺本実著	2020	ベトナムの社会誌: ドイモイ期の記憶の断片		風響社		
	単行本	フィ・ドック著 / 中野亜里訳	2021	ベトナム: ドイモイと権力		めこん		
東南アジアの冷戦/ 東南アジア条約機構/ 非同盟諸国首脳会議	単行本	矢野暢	1986	冷戦と東南アジア		中央公論社		
	単行本	今川瑛一	1999	冷戦から脱冷戦の時代 東南アジア現代史		亜紀書房		
	単行本	佐橋亮	2020	冷戦後の東アジア秩序: 秩序形成をめぐる各国の構想	第6章 ASEANの地域秩序構想とその実践——南シナ海におけるルール形成の取り組みを中心に [湯澤武]	勁草書房		
	単行本	ブライアン・ウォン著/橋本真治 [ほか] 共訳	1984	アセアン諸国の経済		谷沢書房		

ASEAN	単行本	井章邦雄編/成相修 [ほか]	1988	アセアンの経済計画：歴史的課題と展望		アジア経済研究所		
	単行本	三宅和助	1993	アセアンとベトナム：東南アジア発展の鍵		サイマル出版会		
	単行本	青木健編	2001	AFTA(ASEAN自由貿易地域)：ASEAN経済統合の実状と展望		ジェトロ		
	単行本	黒柳米司	2003	ASEAN35年の軌跡：`ASEAN Way'の効用と限界		有信堂高文社		
	単行本	伊藤隆敏, 財務省財務総合政策研究所編	2004	ASEANの経済発展と日本		日本評論社		
	単行本	黒柳米司編	2005	アジア地域秩序とASEANの挑戦：「東アジア共同体」をめざして		明石書店		
	単行本	山影進	2011	新しいASEAN：地域共同体とアジアの中心性を目指して		アジア経済研究所		
	単行本	黒柳米司編	2011	ASEAN再活性化への課題：東アジア共同体・民主化・平和構築		明石書店		
	単行本の一部	中村正志編/川村晃一	2012	東南アジアの比較政治学	第7章 国際制度－ASEAN－ / 鈴木 早苗			
	単行本	佐藤考一	2012	「中国脅威論」とASEAN諸国：安全保障・経済をめぐる会議外交の展開		勁草書房		
	単行本	菅谷広宣	2013	ASEAN諸国の社会保障/Social security in ASEAN countries		日本評論社		
	単行本	黒柳米司, 金子芳樹, 吉野文雄編著	2015	ASEANを知るための50章		明石書店		
	単行本	池部亮, 藤江秀樹編	2016	分業するアジア：深化するASEAN・中国の分業構造		日本貿易振興機構 (ジェトロ)		
	単行本	トラン・ヴァン・トゥ編	2016	ASEAN経済新時代と日本：各国経済と地域の新展開		文眞堂		
	単行本	石川幸一, 清水一史, 助川成也編	2016	ASEAN経済共同体の創設と日本		文眞堂		
	単行本	石戸光編	2017	ASEANの統合と開発：インクルーシブな東南アジアを目指して		作品社		
	単行本	市川顕編	2017	ASEAN経済共同体の成立：比較地域統合の可能性		中央経済グループパブリッシング		
	単行本	西村英俊編	2018	アセアンライジング ERIA＝TCERアジア経済統合叢書		勁草書房		
ドンズー運動	単行本			人物：ファン・ボイ・チャウ、ファン・チューチン 参考				
東インド会社英	単行本							
	単行本	ブライアン・ガードナー著/浜本正夫訳	1989	イギリス東インド会社		リポレポート		
	単行本	明石陽至	2001	日本占領下の英領マラヤ・シンガポール		岩波書店		
	単行本	山本博之	2006	脱植民地化とナショナリズム：英領北ボルネオにおける民族形成		東京大学出版会		
	単行本	長田紀之	2016	胎動する国境：英領ビルマの移民問題と都市統治		山川出版社		
	単行本	浜渦哲雄	2009	イギリス東インド会社：軍隊・官僚・総督		中央公論新社		
	単行本	ウィリアム・タルリンブル著/小坂恵理訳	2022	の帝国：東インド会社の興亡，下		河出書房新社		
	単行本	ウィリアム・タルリンブル著/小坂恵理訳	2022	の帝国：東インド会社の興亡，上		河出書房新社		
東インド会社蘭	単行本	永積昭	1971	オランダ東インド会社		近藤出版社		
	単行本	日蘭学会	1986	オランダとインドネシア：歴史と社会		山川出版社		
	単行本	科野孝蔵	1993	栄光から崩壊へ：オランダ東インド会社盛衰史		同文舘出版		
	単行本	布野修司編	2005	近代世界システムと植民都市		京都大学学術出版会		
	単行本	菅原由美	2013	オランダ植民地体制下ジャワにおける宗教運動：写本に見る19世紀インドネシアのイスラム潮流		大阪大学出版会		
	単行本	太田淳	2014	近世東南アジア世界の変容：グローバル経済とジャワ島地域社会	第4章 共栄の時代――スルタンとオランダ東インド会社の蜜月、1752-70年	名古屋大学出版会		
フランス領インドシナ	単行本	立川京一	2000	第二次世界大戦とフランス領インドシナ：「日仏協力」の研究		彩流社		
	単行本	山口拓	2022	フランス領インドシナにおける学校体育の導入経緯と特徴：仏印植民地報告書（1925-1926年度）の分析的視点から	体育学研究			

ベトナム戦争/ベトナム/ベトナム反戦運動/ベトナム民主共和国/ ベトナム和平協定/ 北爆/ 南ベトナム解放民族戦線	単行本	チュオン・ニュ・タン著/吉本晋一郎訳	1986	ベトナム・メモワール：解放された祖国を追われて		原書房		
	単行本	小沼新	1988	ベトナム民族解放運動史：ベトナムから解放戦線へ		法律文化社		
	単行本	赤木完爾	1991	ヴェトナム戦争の起源：アイゼンハワー政権と第一次インドシナ戦争		慶應通信		
	単行本	古田元夫	1991	歴史としてのベトナム戦争		大月書店		
	単行本	アイン・ドゥック著/富田健次訳	1992	ホンダット洞窟の夜明け：ベトナム戦争を支えた女性達		穂高書店		
	単行本	小倉貞男	1992	ドキュメントヴェトナム戦争全史		岩波書店		
	単行本	朴根好	1993	韓国の経済発展とベトナム戦争		御茶の水書房		
	単行本	ロバート・S・マクナマラ著/仲晃訳	1997	マクナマラ回顧録：ベトナムの悲劇と教訓		共同通信社		
	単行本	吉澤南	1999	ベトナム戦争：民衆にとっての戦場		吉川弘文館		
	単行本	東大作	2000	我々はなぜ戦争をしたのか：米国・ベトナム敵との対話		岩波書店		
	単行本	松岡完	2003	ベトナム症候群：超大国を苛む「勝利」への強迫観念		中央公論新社		
	単行本	ロバート・S・マクナマラ編著/仲晃訳	2003	果てしなき論争：ベトナム戦争の悲劇を繰り返さないために		共同通信社		
	単行本	竹内正右著/クレイ・バッシンジャー 英文編集	2004	ラオスは戦場だった		めこん		
	単行本	レ・カオ・ダイ	2004	ベトナム戦争におけるエージェントオレンジ：歴史と影響		文理閣		
	単行本	中野亜里	2005	ベトナム戦争の「戦後」		めこん		
	単行本	遠藤聡	2005	ベトナム戦争を考える：戦争と平和の関係		明石書店		
	単行本	北村元	2005	アメリカの化学戦争犯罪：ベトナム戦争枯れ葉剤被害者の証言 教科書に書かれなかった戦争		梨の木舎		
	単行本	森聡	2009	ヴェトナム戦争と同盟外交：英仏の外交とアメリカの選択1964-1968年		東京大学出版会		
	単行本	金賢娥著/安田敏朗訳	2009	戦争の記憶記憶の戦争：韓国人のベトナム戦争		三元社		
	単行本	曹良鉉	2009	アジア地域主義とアメリカ：ベトナム戦争期のアジア太平洋国際関係		東京大学出版会		
	単行本	レ・ティ・ニャム・トゥエット	2010	ベトナム女性史：フランス植民地時代からベトナム戦争まで		明石書店		
	単行本	吉沢南	2010	同時代史としてのベトナム戦争		有志舎		
	単行本	和田春樹ほか	2011	岩波講座東アジア近現代通史 ベトナム戦争の時代：1960-1975年		岩波書店		
	単行本	松岡完	2012	ケネディと冷戦：ベトナム戦争とアメリカ外交		彩流社		
	単行本	伊藤正子	2013	戦争記憶の政治学：韓国軍によるベトナム人戦時虐殺問題と和解への道		平凡社		
	単行本	京楽真帆子	2014	英雄になった母親戦士：ベトナム戦争と戦後顕彰		有志舎		
	単行本	ヴォー・グエン・ザップ著/古川久雄訳・解題	2014	愛国とは何か：ヴェトナム戦争回顧録を読む		京都大学学術出版会		
	単行本	フィ・ドゥック著/中野亜里訳	2015	ベトナム：勝利の裏側		めこん		
	単行本	松岡完	2015	ケネディはベトナムにどう向き合ったか：JFKとゴ・ジン・ジエム暗闘		ミネルヴァ書房		
	単行本	ニック・タース [著]/布施由紀子訳	2015	動くものはすべて殺せ：アメリカ兵はベトナムで何をしたか		みすず書房		
	単行本	油井大三郎	2019	平和を我らに：越境するベトナム反戦の声/Give peace a chance		岩波書店		
	単行本	コ・ギョンテ著/平井一臣 [ほか] 訳	2021	ベトナム戦争と韓国、そして1968		人文書院		
	単行本	寺地功次	2021	アメリカの挫折：「ベトナム戦争」前史としてのラオス紛争		めこん		